

650号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所 2023.7.10

簡易放牧が始まりました 1	防疫情報 6
高病原性鳥インフルエンザに対する 早めの防疫対策をお願いします! 2	北陸三県和牛子牛市場開催される 6
豚熱ワクチンの移行抗体だけでは 子豚への豚熱感染は防げません 3	牛肥育期用配合飼料に抗生物質 (モネンシンナトリウム)の使用が 可能となりました 6
ハエのシーズンです 基本対策をしっかりと! 4	第18回食育推進全国大会 in とやまが 開催されました 6
検査室レポート 5	

簡易放牧が始まりました



小矢部市論田地区

今年も県内各地で簡易放牧が始まり、6月5日小矢部市論田地区2頭、6月16日黒部市内の阿古屋野地区、同市内山地区で各2頭、6月19日南砺市土生新4頭がそれぞれ放牧されました。簡易放牧は、耕作放棄地等での舌草刈り（牛が草を採食して刈ること）による景観保全や獣害対策、また、飼料価格が高騰している状況下で放牧を活用した飼料コスト削減等を目的として、初夏から秋口まで行われます。

今年も、富山市、黒部市、立山町、氷見市、小矢部市、南砺市の5市1町29か所が予定されており、遅くとも7月までに順次牛が放牧される予定です。長年にわたって放牧が行われている地域では、牛に名前をつけるなど親しまれ、里山の風景として定着しています。放牧を支えて頂いている畜主並びに放牧管理をして頂いている地元の皆様や関係者に感謝申し上げます。

(西部家保環境課 粕谷課長)

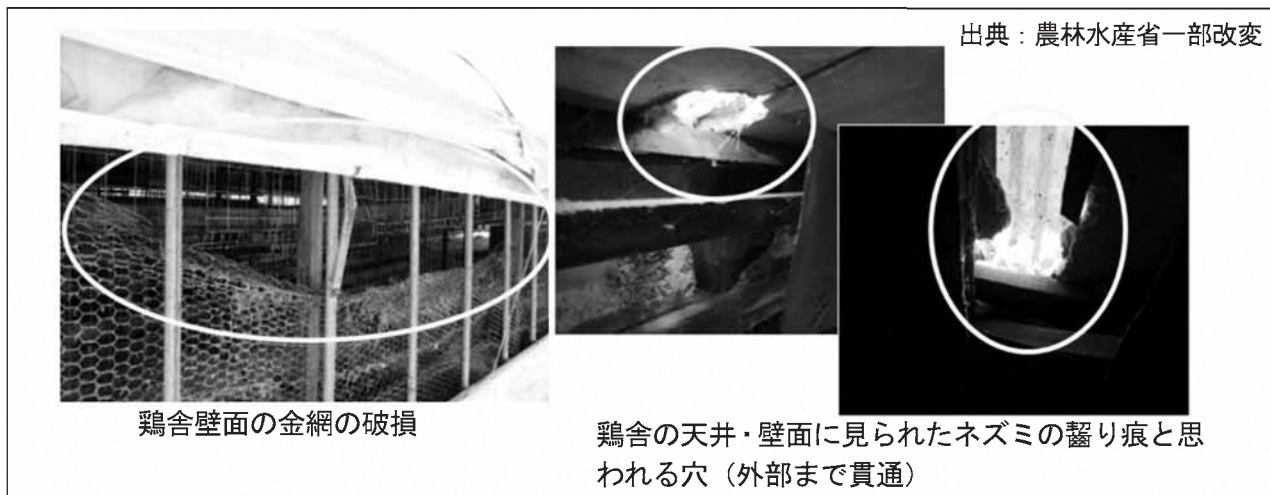
高病原性鳥インフルエンザに対する早めの防疫対策をお願いします！

農林水産省は6月20日、高病原性鳥インフルエンザ（以下、HPAI）について「清浄化」を宣言し、国際獣疫事務局（OIE）に認められたと発表しました。「清浄化」は、農場や施設からウイルスがなくなったことを意味し、事実上の終息宣言となります。

昨シーズンは、これまでで最も早い10月28日に家きんで初めての発生が確認され、4月7日までに26道県84事例発生し、約1,771万羽が殺処分の対象となりました。また、例年は発生が減少傾向となる3、4月に入っても広範囲で発生が確認されました。

昨シーズンの発生農場での疫学調査から、車両消毒や、衣服・靴の交換、手指消毒などの衛生対策において不備がみられた事例が認められています。また、これらの衛生対策を実施していた農場であっても日常的な実効性については不十分と考えられる事例が見られました。家きん舎については、破損等により野生動物の侵入の可能性がある事例が認められ、一部のウインドウレス鶏舎についても、屋根上のモニター部分の金網や防鳥ネットに穴が確認されました。

	家きん	野鳥、環境
初発	2022/10/28 岡山県	2022/9/25 神奈川県
最終発生	2023/4/7 北海道	2023/4/19 北海道
範囲	26道県	28道県
事例	84事例	242事例



鶏舎壁面の金網の破損

鶏舎の天井・壁面に見られたネズミの齧り痕と思われる穴（外部まで貫通）

今シーズンにおいても同様にHPAIウイルスが野鳥を介して国内に侵入するリスクは高く、またシーズンの始まりも早まるともいわれています。来たる今シーズンに向けて、夏から対策を講じることが非常に重要です。これらのことを意識した上で、以下の対策をお願いします。

- (1) 従業員等に、消毒、長靴交換等の重要性を説明し、適切に消毒や長靴の交換ができているか確認すること
- (2) 農場敷地内や鶏舎周囲の消毒を定期的に行い農場全体で消毒を習慣づけること
- (3) 小動物や野鳥等が農場内に近づかないようなネット等設置などの対策を講じること
- (4) 入気口や鶏舎天井裏など普段目が届きにくい場所も隅々まで点検を行い、鶏舎に隙間や破損箇所等がないことを確認すること
- (5) 衛生管理区域や鶏舎ごとの長靴の交換等、適切な衛生管理が従業員や外来業者においても日常的になされているか確認すること
- (6) 長靴の交換の際は、交差汚染を防ぐため、長靴の動線が交わっていないことを確認すること

養鶏農家の皆様においてはHPAIに対する警戒のシーズンが終わり、一息つきたい頃かもしれませんが、シーズンが始まってからの対策では遅いことを意識し、早め早めの整備・対策をお願いします。特に防鳥ネットや鶏舎壁の隙間、天井裏等の見回り、点検は夏のうちに言い、必要に応じて補修を行うようにしてください。重ねてではありますが飼養衛生管理基準の遵守徹底、個々の農場での防疫対策の強化をお願いします。

(西部家保防疫課 小林獣医師)

豚熱ワクチンの移行抗体だけでは子豚への豚熱感染は防げません

豚熱の予防的ワクチン接種は令和元年の10月から開始され、現在は39都府県で実施されています。この間、全国の家畜保健衛生所ではワクチン免疫の獲得状況を継続して調査し、そのデータを基に国の牛豚等疾病小委員会がワクチンの接種適期を検討して全国で情報共有しています。

そのほかにも豚熱の発生予防のために日々研究がなされている最新の知見について、農林水産省は都道府県に対して情報を提供しています。今回、その一環として農林水産省が実施した研究事業で、ワクチンの移行抗体を持った子豚に対する感染・発症防御に関する新しい知見が得られましたので、その概要をお知らせします。

【試験内容と結果】

試験は、高い移行抗体を持った子豚、低い移行抗体を持った子豚、移行抗体を持たない子豚の3群に対し、現在日本で発生している豚熱ウイルス（JPN/1/2018株）を経口接種させ、感染の有無、発症の有無、症状の重さ、ウイルス排泄期間の長さ等について調査しました。

その結果、以下の3点が判明しました。

移行抗体価の高低にかかわらず豚熱に感染した。

移行抗体価が高い豚群は、感染はするが臨床症状は抑えられた。また、ウイルスの排出期間は移行抗体価が低い豚群より短い傾向にあった。

臨床症状がなくても一定期間ウイルス排泄が起こった。今回の試験期間である接種後26日間までは臓器中にウイルスが残存していた。

【今後の対応方針】

移行抗体価が高い子豚では発症防御はできるが、移行抗体だけで豚熱の感染を完全に防御することは難しい。そのため、離乳豚がワクチン抗体を獲得するまでの間は、飼養衛生管理の徹底によりウイルス感染を予防する。

子豚のワクチン接種時期は、できるだけ早い時期でワクチンブレイクを起こさないタイミングに設定する。

ワクチンの免疫付与率が低い豚群が確認された場合は随時追加接種の協議を行い、適切にワクチンを接種する。

【まとめ】

今回の知見では、豚熱ワクチンの移行抗体は発症を抑える効果はあるものの、感染を完全に防ぐことはできないという結果が出ました。豚熱ワクチンは、これさえ打っておけば大丈夫といった万能薬ではありません。

これまでどおり車両や手指の消毒、畜舎毎の専用衣服・長靴の交換など、ウイルスの侵入防止対策を徹底することが基本です。そのうえで適切にワクチンを接種して確実に免疫を付与することで、さらに感染リスクを下げるのが可能になります。

養豚農家の皆様におかれましては、引き続き飼養衛生管理基準の遵守徹底をお願いします。

(西部家保防疫課 宮本係長)



車両の消毒



畜舎毎の専用の衣服・長靴使用



長靴をしっかりと洗浄

出典：飼養衛生管理基準ガイドブック

ハエのシーズンです 基本対策をしっかりと！

7月となり、ハエの発生が増える時期になりました。今回、ハエの生態を踏まえて、基本的な対策を復習したいと思いますので、今一度、ハエ対策について、考えてみてはいかがでしょうか。

【ハエの生態】ハエは成虫になってから5日後くらいから産卵し、1度に50～100個の卵を産みまします。卵から成虫になる日数は、気温が上がると短くなります（気温20度では約20日ですが、気温30度では7～10日）ので、早めに対策を取ってください。

【ハエの駆除法】「環境対策」と「薬剤による対策」をバランスよく行うことが大切です。

1 環境対策

ポイントは、清掃・熱・乾燥です。ハエの幼虫は家畜の糞や飼料残さをエサとしますので、こまめな除糞と清掃を心掛けましょう。とくに、除糞は、ハエの生活環の日数以内の間隔（約1週間）で行うことが重要です。また、堆肥の発酵熱により幼虫を死滅させることも可能です。さらに、ハエの卵は水分50%以下でふ化率が低下しますので、水漏れがあれば修理して、換気を行いましょう。

2 薬剤による対策

薬剤によるハエ対策は、幼虫対策が基本となります。

<幼虫対策>

ウジの発生しやすい場所へは定期的な昆虫成長調整剤（IGR剤）や有機リン系の薬剤を散布します。散布の間隔は初回散布から15日目に2回目を散布し、以後は30日間隔で行います。

<成虫対策>

誘引殺虫（毒餌法）と直接散布の方法があります。誘引殺虫では、ハエの好む餌に殺虫剤を混入し、あらゆる場所に設置または塗布します。あらかじめ誘引物質を配合してあるベイト剤を使用する方法もあります。直接散布する場合は、畜舎外周辺から畜舎内に向けて薬剤を散布します。

薬剤によっては休薬期間がありますので、添付文書をよく読んで使用しましょう。

薬剤	特徴	対象
IGR剤	幼虫の脱皮を阻害し、ハエの発生を抑える。残効性がある。人や家畜への安全性が高い。高価。（例）ネボレックス、デミリン水和剤など	幼虫
ピレスロイド系	即効性に優れるが、残効性がない。人や家畜への毒性は比較的低い。（例）ETB乳剤、バイオフライ、スパレン乳剤 など	幼・成虫
有機リン系	殺虫力は強いが、人や家畜に毒性がある。耐性ができやすい。安価。（例）ネグホン、スミチオン、トヨダン乳剤 など	幼・成虫
カーバメイト系	有機リン系と同様の作用がある。ゆるやかに作用する。（例）ボルホ、サンマコー など	幼・成虫

ハエの駆除にペットボトルトラップを自作してみませんか？

（一社）富山県ペストコントロール協会では、ハエを安全かつ効果的に捕獲する方法として、ペットボトルトラップを使用されています。東日本大震災の時にも活用され、大量にハエが捕獲されたとのことです。簡単に作ることができますので、参考になさってください。

<ペットボトルトラップ（ハエとり器）の作り方>

1.5リットルまたは2リットルのペットボトルの中央より下（3分の1くらい）に500円玉くらいの円を書く。

マジックで書いた円にカッターナイフで十字に切れ込みを入れる。

ハサミでさらに細かく切れ込みを入れる。

切れ込みを内側に折る。

ハエとり用液体（A）をペットボトルの中に入れて完成。

ハエとり用液体（A）

砂糖：100g、日本酒：70cc、酢：50cc



（西部家保環境課 粕谷課長）

検査室レポート

検査実施状況(令和5年2月21日～令和5年6月25日現在)

区分	畜種	診断名・検査名	件数	頭羽数	検体数
病性鑑定	乳用牛	牛ロタウイルス病	1	1	1
		牛コクシジウム病	1	3	3
		心室中隔欠損症	1	1	1
		リンパ腫と腎不全	1	1	1
		細菌性乳房炎および真菌性乳房炎	35	157	417
		その他	59	66	81
	肉用牛	牛ロタウイルス病	2	2	2
		牛パラインフルエンザと牛マンヘミア症	1	1	2
		牛パストツレラ症	4	4	4
		牛マンヘミア症	1	2	2
		牛マンヘミア症と尿毒症	1	1	1
		ヒストフィルス・ソムニ感染症	1	1	1
		牛クロストリジウムパーフリンゲンス感染症	2	2	2
		牛コクシジウム病	2	2	2
		牛の消化管内線虫症	1	1	1
		尿毒症	1	1	1
		その他	58	75	75
		豚	豚サーコウイルス関連疾病	1	2
	豚サーコウイルス関連疾病と豚レンサ球菌症		1	1	1
	豚増殖性腸炎		1	1	1
	その他		2	13	13
	鶏	なし			
	緬・山羊・馬・その他	破傷風	1	1	1
		山羊のコクシジウム病	1	1	1
		山羊の消化管内線虫症	1	1	1
		尿石症	1	1	1
		尿毒症	1	1	1
		腹膜炎	1	1	1
		細菌性乳房炎	5	8	14
		アカリダニ症(届出伝染病)	1	9	9
		その他	15	17	21
一般検査	緬・山羊・馬・その他		162	1,172	1,758
鳥インフルエンザ検査	鶏	分離・抗体検査	24	240	480
BSE検査	牛	エライザ検査	13	13	13
TSE検査	山羊	ウェスタンブロットまたは免疫組織学的検査(動物衛生研究部門に依頼)	3	3	3
豚熱検査	野生いのしし	PCR検査	16	115	115
合計			422	1,921	3,033

(西部家保検査課 野田課長)

防 疫 情 報

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病 名	畜 種	発生日	戸 数	頭羽数	備 考
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	牛	5月10日	1	1	
ヒストフィルス・ソムニ感染症	牛	5月28日	1	1	
牛ロタウイルス病	牛	5月29日	1	1	
牛パスツレラ症	牛	6月5日	1	1	
牛コクシジウム病	牛	6月13日	1	3	
		6月26日	1	1	
豚丹毒 (届出伝染病)	豚	5月24日	1	2	と畜場発見
		6月19日	1	1	
豚サーコウイルス関連疾病	豚	6月1日	1	2	
豚サーコウイルス関連疾病と豚レンサ球菌症	豚	6月1日	1	1	

北陸三県和牛子牛市場開催される

6月22日、金沢市の北陸三県家畜市場において、令和5年度第2回の北陸三県和牛子牛市場が開催されました。今回は全体で去勢109頭、雌75頭の計184頭の取引が成立し、富山県からの出品牛は去勢22頭、雌18頭の計40頭の取引が成立しました。全体の取引頭数は、前回比17頭の減少となりました。平均価格は、去勢で479千円(4月市場588千円)、雌で386千円(同494千円)、全体では441千円(同549千円)でした。また、最高価格は去勢で701千円、雌が619千円でした。

次の開催は令和5年8月24日です。

(西部家保環境課 米澤主任)

牛肥育期用配合飼料に抗生物質(モネンシナトリウム)の使用が可能となりました

粗砕したヘイキューブを原料とする牛肥育期用配合飼料へのモネンシナトリウム(ルーメン発酵調整機能を有する)の使用については、配合飼料中の抗生物質が不均一となり飼料の成分規格を満たさず、牛の健康被害および畜産物への残留を生じることを防止する観点から使用ができませんでした。

しかし、今般、配合飼料の混合技術が向上してきたことを踏まえ、農林水産省において令和5年6月6日に「サリノマイシナトリウム又はモネンシナトリウムを含む牛肥育期用飼料の取扱いについて」が改正され、製造事業場での工程管理および品質管理において、ヘイキューブを使用した配合飼料等でモネンシナトリウムが均質に混合されることを自ら確認していることを条件として、モネンシナトリウムの使用が可能となりました。

(西部家保環境課 粕谷課長)

第18回食育推進全国大会 in とやまが開催されました

令和5年6月24日(土)、25日(日)に富山産業展示館(テクノホール)にて、第18回食育推進全国大会 in とやまが開催されました。その代表的なイベント「富山食育シンポジウム」では、「食とウェルビーイング」をテーマとしたパネルディスカッションにおいて、パネリスト4人のうち、農業者として(有)土遊野代表の河上めぐみさん、畜産農家として県乳牛協会会長である青沼光さん(clover farm 代表)が務められました。

河上さんは、生産者と消費者をつなぐために現場を知ってもらう取組みを行っていることや、有機農業など魅力ある農業を次世代につなぐために実践していること。青沼さんは、畜産物を食べている消費者に、その生産現場の理解を進めていく必要があることや、生産者と消費者がお互いに食について考えていくことで、より豊かな生活になることなど、活発に意見交換されました。

毎日の食事での、それぞれの食材について、作られてきた過程などを家庭で話し合うなど、食の大切さについて考えてみてはいかがでしょうか？

(西部家保環境課 粕谷課長)

発行所 富山県東部家畜保健衛生所
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6
編集者 粕谷 健一郎(富山県西部家畜保健衛生所)

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/index.html
電話 (076) 479-1106 F A X (076) 479-1140